



平成 23 年 2 月 9 日

報道関係者各位

社団法人 電気学会
技術者教育委員会

初等中等理科教育支援活動の拡大

社団法人電気学会技術者教育委員会では、平成 23 年 1 月に電気理科クラブを発足させ、初等中等理科教育支援活動の拡大を図ることといたしました。

国や産業界では子供達の理科離れを大変に心配していますが、それは技術が日本を維持発展させるベースとなっているためです。「技術立国日本」の再生のためには低年齢層から理科／科学に親しむ機会を増やすなど具体的な行動につなげていくことが急務であり不可欠です。このため、日立理科クラブ、蔵前理科教室、日本電機工業会理科教育支援、お茶の水女子大理科教育支援者養成事業などの取り組みがあります。一言に理科離れ対策と言っても理科の範囲は広く、対象とする学校や生徒も多く、単独の学会や組織で対応できるものではありませんが、これまでの活動経験を生かし、活動の範囲を拡大していきます。

1. 電気学会理科教育支援の実績

電気学会は IEEJ プロフェッショナル^{※1}を中心に理科教育支援を実施してきました。2007 年から 3 年間武蔵村山市において実施した例、JST による SCOT 事業への参加や各区市町村教育委員会の理科支援施策への参加などの実績を「IEEJ プロフェッショナルによる理科教育支援事業実績と理科実験事例集」（電気学会、平成 22 年 8 月 31 日発行）^{※2}にまとめ、関係者から高い評価を受けています。

2. 電気理科クラブの位置付け

電気理科クラブは、柔軟な活動を優先するため、技術者教育委員会の下部にある教育支援部会^{※3}に属し、その活動母体は IEEJ プロフェッショナルを中心として、個別の案件に対して必要な人材を募り、活動を遂行していきます。

電気理科クラブの活動に必要な実験機材の貸出費、人件費、交通費等の最低限必要とする費用は原則依頼元に応分の予算化をお願いすることとします。

3. 電気理科クラブの目指す初等中等教育

- ・ 小中学生が自ら、客観的に物事を観察し、自立的に考える力を養います。
- ・ 上記が実現できる教育環境作りを支援します。

4. 電気理科クラブの活動形態

本来、国や地方自治体等が行うべき事項を除き、次のような項目を実施します。

児童、生徒、保護者を対象として

(1) 小中学生の理解を促す理科実験機材の開発



(2) 電気技術等の体験に基づく経験の講演／公開体験実験

先生を目指す学生を対象として

(1) 電気、力学を中心とした工学系の講義の講師

先生、理科支援員を対象として

(1) 小中学生対象の理科実験事例を先生や支援員へ講演

(2) 地域で実施される理科支援事業のアドバイザー
等

※1 IEEJ プロフェッショナル

電気学会の会員であって、高度な技術力・専門性を有する方々を「IEEJ プロフェッショナル」として電気学会が認定しており、現在、129名が認定されています。

要件は以下の通り。

- ・専門的な技術力を有する会員
- ・豊富な経験により蓄積された職業的な知恵を有する会員
- ・電気学会のネットワークを生かした問題解決・提案ができる会員
- ・日本の産業活性化を望む熱き会員
- ・収入目的だけでなく、社会貢献による充実感の獲得を目的とする会員

※2 「IEEJ プロフェッショナルによる理科教育支援事業実績と理科実験事例集」

今後の理科教育支援事業の一部に貢献できることを期待して「理科実験事例集」と理科支援者の経験を報告書としてまとめたものです。添付冊子をご参照下さい。

※3 教育支援部会

技術者教育委員会の下部組織で以下の事項を審議し活動します。

- (1) 電気技術分野における教育支援・連携の形態の検討
- (2) 電気学会が行う教育活動に関する事項
- (3) 高等教育機関への教育支援に関する事項
- (4) 初等中等教育への教育支援に関する事項
- (5) IEEJ プロフェッショナルの活用に関する事項
- (6) 学会内の他部署との相互連携
- (7) 関連学協会並びに関連自治体等との相互連携
- (8) その他、教育支援事業に関連する事項

以上

本件のお問合せ先：
電気学会技術者教育委員会（事務局） 吉澤純一
tel : 03-3221-7310, e-mail : yoshizawa@iee.or.jp